



# ひなどい

第8号

令和7年12月16日  
新潟市立新津第三幼稚園だより

【教育目標】

なかよく せいいっぱい  
遊ぶ子ども



小学校の学習から



園長 大矢 晃子

先日、小学校の授業を見せていただく機会がありました。ある小学校1年生の生活科の授業です。1年生の子どもたちは、先生の話聞いて、今日やることがわかり自分で考えながら、課題に取り組んでいました。「みんなの にこにこ 大きくせん」という単元での授業です。子どもが家族の一員として、自分ができることを考え、どのようにやってみるか、などを考える内容でした。例えば、「お皿洗い」「洗濯物を干す」「お風呂を洗う」などです。家庭で毎日のお家の人がやっている仕事を、自分も家のお手伝いをやってみよう、ということをお伝え合っていました。

この授業の面白いところは、教室にお皿洗いの場、洗濯物の干す場があり、掃除には掃除機を使ってみるなど、実際に試す場を作り、やってみるという体験を通じた授業だったことです。ここで重なったのは、園の子どもたちが友達とよく楽しんでいる「ごっこ遊び」です。幼児期のごっこ遊びは「～のつもり」が多く、おうちごっこの場面では、それぞれがなりたい役になって、それらしく、なりきって遊んでいます。幼児は真似をするので、モデルとなるお家の人や物の扱い方などが再現されていて、微笑ましく思うこともあります。子どもたちはこのような遊びを通して、想像力や社会性を身に付けます。

この学習では、お皿洗いのやり方を友達と試しながら、やり方の違いに気付いたり、そのやり方がいいね、と参考にしたりという観点で子ども同士の気付きを確かめていました。幼児期のごっこ遊びとは、質が違うのですが、園での遊びを通して経験してきたことは、小学校でもつながりを持ち、これを基にさらに深めていくという、学びの連続性を感じました。

園は、算数や国語などを教える場ではありません。しかし、学びにつながることを遊びの中で経験できるように、保育を行っています。例えば、遊びの中で数を数えたり、量の多い少ないに気付かせたり、文字に関心をもてるような遊びを取り入れたりしています。各クラスだよりで、子どもたちの遊びや生活の様子を発信していますが、ぜひ、このような視点から遊びを捉えていただくと、子どもたちは、ただ友達や先生と楽しく遊んでいるだけではないという、お子さんの学びの姿、成長を感じていただけたらと思います。



もうすぐ冬休みです。家庭で過ごす時間が多くなりますが、子どもたちの貴重な経験として、子どもでもできる、やってみたいというお手伝いを任せてみてはいかがでしょうか。「できる」ことが増えることは、子どもにとっても嬉しいことです。

2学期も園の教育にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

## 年長あやめ組 生活発表会



### 劇遊び

「へなそうる と ぼん」



すすめさんたちが、  
ぱんを焼きました。  
するとぱんが逃げ出  
します。  
「まてまて～」



すすめさん、ねずみさ  
ん、森のようせい、消  
防士さん、とらさんた  
ちは、ぱんを追いか  
けます。  
すると・・・



ぱんは、また逃げ出して・・・  
最後はへなそうるの口の中に「ぱくり」  
みんなで「へなそうる～まてまて～！」



生活発表会では、あやめ組の子どもたちがいつもの生活の中で、遊んでいることを友達や先生と一緒に劇遊びにしました。縄跳びや鉄棒、マットのでんぐり返しなど、できるようになったことも披露していました。目的に向かって、みんなで取り組んでいく楽しさを経験することができました。あやめ組の子どもたちは、お家の方や年少、年中組にたくさんの拍手と褒めてもらって、嬉しそうでした。この達成感はこのからの自信につながると思います。

## ～もちつきをしました～



12月12日、幼稚園でもちつきをしました。炊き立てのもち米から、だんだんとおもちになっていく様子を見たり、年長組はお家の人と一緒に、杵でついたりしました。

ついたおもちは、鏡餅にして、お正月を迎えることにしました。

